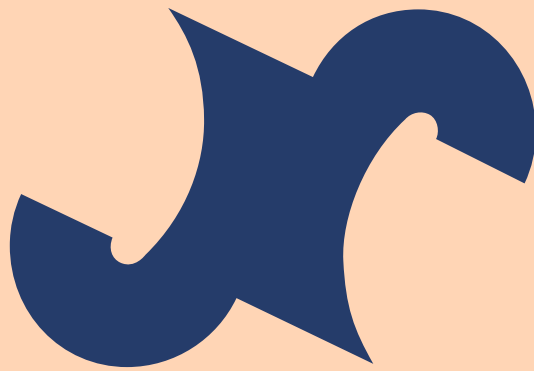


# 提言書

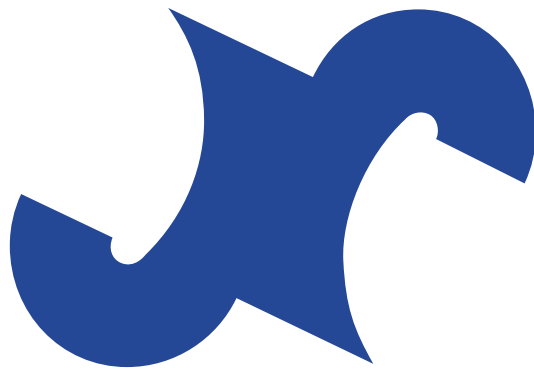


**YEG**

松江商工会議所青年部  
令和3年度提言委員会



# 提言書



**YEG**

松江商工会議所青年部  
令和3年度提言委員会



# はじめに

私たち松江商工会議所青年部は、地域の経済的発展の支えとなり、独自の歴史と文化、その地域の特性を十分活かして、豊かな住みよい地域を創造していく事を目的に活動する団体です。平成29年度より松江商工会議所青年部はその責務である提言活動を行うため新たに委員会を設置し、松江のために何ができるか検証・議論を重ねて参りました。

その結果、まつえの未来を支える子どもたちが郷土愛を育むことが松江で暮らし、松江で働くための原動力になると考え「まつえの日」の制定に向け提言書を作成しました。

私たちは「まつえの日」を松江市民みんなが待ち遠しく思い、松江の魅力を再認識できる「みんなに望まれる日」にしたいと考えています。



## 松江商工会議所青年部

令和3年度 松江商工会議所青年部

会 長 大内智弘  
直前会長 長岡 望

令和3年度 松江商工会議所青年部  
提言委員会

担当副会長	堰 大輔	委 員	伊東昌幸	常松牧人
委 員 長	糸賀悠平		今田大介	成瀬義広
副 委 員 長	井原通美		内田晋史	富金原健治
副 委 員 長	内部健司		佐藤良治	福田大貴
副 委 員 長	山野春香		菅井祥史	村上裕司
			曾田省吾	米村嘉晃
			竹内雅哉	

# 提 言 書

私たち松江商工会議所青年部は、

「水都松江を誇りに思う郷土愛の醸成」の実現に向けて、

松江市民自らが松江を楽しみ、学び、誇りに想い、

もっと松江が好きになる日を「まつえの日」と定め、

松江市民が望む1日とすることを提言いたします。

## 提 言 書

私たち松江商工会議所青年部は、「水都松江を誇りに思う郷土愛の醸成」の実現に向けて、松江国際文化観光都市建設法第 1 条にも記され、文筆を通じて松江市を世界的に著名にした「松江を愛した人」ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の誕生日 6 月 27 日を「まつえの日」と定め、毎年 6 月 27 日は松江市民自らが「松江を楽しみ、学び、誇りに想い、もっと松江が好きになる」ための郷土愛を醸成する一日とすることを提言いたします。

※上記提言書は令和元年 9 月 26 日に市長へ、同年 10 月 2 日には市議会議長へ提出しました。

# 郷土愛の醸成

松江市の人口流出に歯止めをかけ、若しくは一度松江市から流出した人が松江へ戻りたくなるために必要なことは、松江に対する郷土愛の醸成であると考えます。郷土松江を愛する心は、松江で暮らし、松江で働くための原動力になりうるものです。

松江商工会議所青年部でも、平成 25 年度より、松江の魅力向上を目指し「水都」を中心としたビジョン構想を行ってきたところですが、その根幹にあったのは「水都松江を誇りに思う郷土愛の醸成」でした。そして、特に松江の未来を支える子どもたちが郷土愛を育むことに焦点をあててきました。

# まつえの日の制定

国際文化観光都市である松江市は、国宝松江城をはじめ、宍道湖、小泉八雲邸など魅力ある豊富な観光資源を有しています。私たちは、松江市民自らが、これらの観光資源に触れ、松江の魅力を再認識することで、都会へのあこがれにも勝る郷土愛の醸成が可能になると考えました。

まつえの日を制定することにより、産官学連携し松江市全体で松江の魅力を感じ共有することが可能になります。また、まつえの日は、1年に一度、郷土松江に想いを来す機会と位置付けることができますが、まつえの日に関する取り組みを長年続けることによって、より市民の郷土愛が増幅していくことも期待できます。

郷土愛を更に醸成することで、一度は県外に出た松江出身者が、豊富な知識と経験を手に入れてやがて故郷に戻ってくる街、「誇れるふるさと松江」が実現できると考えます。



# まつえの日コンソーシアム構築について

私たち松江商工会議所青年部は、まつえの日制定に向けて、松江市、経済団体、町内会・自治会連合会、教育機関等と連携して、「まつえの日コンソーシアム」を構築したいと考えています。

同コンソーシアムは、産官学一体となって、まつえの日制定に向けて松江市全体の機運を高め、まつえの日として松江市民への周知・浸透を図ることを目的とするものです。

同コンソーシアムにおいては、概ね次のような活動を行うことを想定しています。

## [活動内容]

- ・まつえの日制定の趣旨、即ち「松江を楽しみ、学び、誇りに想い、もっと松江が好きになる」との趣旨に適った行事や市民参加型の活動を検討・計画する。
- ・松江の豊富な資源を後世へどのように伝えていくか検討し、実行する。
- ・まつえの日制定後においても、まつえの日が松江市民に浸透するために必要な活動を継続して行う。

# まつえの日活用例

## ○小泉八雲関連

小泉八雲という地域の文化資源を活用したまちづくり。  
現在開催されているイベントとの連動等。

## ○松江市民へ観光施設、バスの無料・割引解放。

この機会に松江の観光資源を体験し、理解を深める機会とする。

## ○まつえ愛～Eye～子ども作文（絵画）コンクール

「ふるさと教育」として未来を支える子ども達に、自分たちの住んでいる地域の魅力を作文（絵画）にしてもらい「松江を誇りに思う郷土愛の育成」を図る。

## ○松江城活用

2015年に国宝に指定された松江城を活用。

## ○宍道湖活用～宍道湖に集まれ～

嫁ヶ島渡島など松江のシンボルである宍道湖を活用。

## ○まつえの日大使任命式

まつえの日を広めてくれる大使を任命する。

## ○子ども体験活動～茶道・職業・ボランティア～

地域の文化や伝統・職業に触れ、地域の魅力を再発見してもらい、「松江を誇りに思う郷土愛の育成」を図る。

## ○スポーツ関連

バスケットボール・サッカー選手との触れ合いにより「松江を誇りに思う郷土愛の育成」を図る。

# 松江の現状

松江市は人口減少対策を最大の課題として掲げ、上定市長の下、全力で取り組んでおられます。

松江市の人口は、平成12年まで増加していましたが、平成17年には戦後初めて減少しました。特に社会動態では、若年層の就職・就学による転出が人口減少の主な原因となっています。年齢別人口では、少子高齢化の傾向が目立つようになっていきます【図1】。また、労働力人口も減少傾向にあります【図2】。

このように、松江市は、都市活力の源となる人口が減少するという問題に直面しています。このまま放置すれば、若年層の流出や高齢化率の高まりにより、ますます問題が深刻化していくことは明らかです。こうした事態は労働力の減少やそれに伴う生産活動の縮小にも繋がります。



# 松江の現状

松江市ではUターンを促進する施策も講じられていますが、都道府県別初任給（厚生労働省 賃金構造基本統計調査：令和元年）をみると【表1】のような格差が認められ、これも若年労働力の減少の一因だと考えられます。

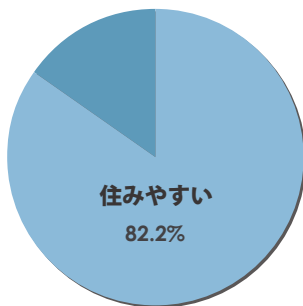
しかし、松江市が行ったアンケートでは、松江市民の80%以上が松江に住みやすいと解答し、学生（島大、県立大、高専）においても70%以上が松江に愛着があると解答しています。

これらから、松江に愛着はあるが都会へのあこがれや利便性を求めて若者が都市部へ流出する傾向にあると考えられます。

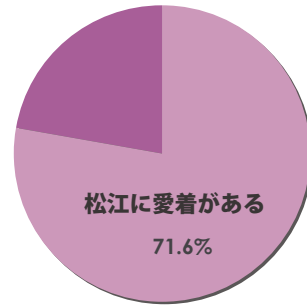
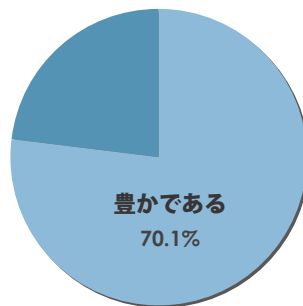
【表1】

都道府県	大卒初任給(千円)	格差(東京=100)
東京都	220.5	100.0
島根県	192.8	87.4

松江市民へのアンケート



市内大学生へのアンケート



出典：松江市まち・ひと・しごと創生 ～松江らしさを磨き、共に未来を切り拓く～

# 他地域での導入例

都道府県や市町村も郷土愛醸成などの為に記念日を制定するところも増えてきました。

## ●岡山市民の日（6月1日：市制施行日）岡山市

### [趣旨]

岡山市が今後ますます発展していくためには、市民一人ひとりが岡山のまちを愛し、誇りに思い、盛り上げていくことが必要である。

郷土・岡山への理解と関心を深め、愛着と誇りを育み、魅力あるまちづくりを進めていくきっかけとして、市民みんなが岡山市のことを考える日とする。

### [イベント]

- ・ 岡山の歴史や文化を再発見する催し・岡山のまちへの愛着を育む催しなどの関連事業に取り組む
- ・ 給食特別メニュー（地産地消）
- ・ 岡山市民の日シンポジウム開催
- ・ I LOVE 岡山川柳募集

## ●日光市民の日（3月20日）日光市

### [趣旨]

市民が郷土に愛着と誇りを持ち、市民としての一体感と自治の意識を育み、活力に満ちた魅力ある日光市を築くことを期する日として、3月20日を日光市民の日とする。

### [イベント]

- ・ 市の公共施設の一部を無料で開放（市有温泉施設9カ所、観光施設4カ所）
- ・ 給食特別メニュー（地産地消、さらに市から一人あたり160円程度補助【上乘せ】）





